



脱原発世界会議2012YOKOHAMA セッション報告書

- 企画タイトル 特別セッション1:首長会議:地域発・原発に頼らない社会のつくりかた
- 日時 1月15日(日) 16:30 - 17:45
- 場所 1Fメインホール
- 企画参加人数 約1,000名
- 文責 越智信一郎(ピースボート)
- 登壇者

- ・ 山本コウタロー／フォークシンガー、白鷗大学教育学部教授<司会>
- ・ 上原公子／元東京都国立市長、現・自治体議員政策情報センター長<司会>
- ・ 井戸川克隆／福島県双葉町長
- ・ 桜井勝延／福島県南相馬市長
- ・ 石井俊雄／千葉県長生村長
- ・ 保坂展人／東京都世田谷区長
- ・ 三上元／静岡県湖西市長
- ・ 西原茂樹／静岡県牧之原市長
- ・ 笹口孝明／元・新潟県巻町長

最初に、首長会議と日程が合わずメッセージをいただいた首長は、以下の方々です。

朴元淳(パク・ウォンスン)ソウル市長(大韓民国)、上田文雄 札幌市長(北海道)、古川道郎 川俣町長(福島県)、鈴木和夫 白河市長(福島県)、村上達也 東海村長(茨城県)、菅谷昭 松本市長(長野県)、加藤憲一 小田原市長(神奈川県)、山岸正裕 勝山市長(福井県)、鈴木健一 伊勢市長(三重県)、中川智子 宝塚市長(兵庫県)。

会議は、山本コウタロー氏と上原公子氏の司会の4部構成で行われ、1,000名の会場は満席であった。

第1部「被災地の首長として～福島からの声～」では、まず東電福島第一原発5号機、6号機のある双葉町の井戸川町長が発言した。原発事故前に避難道路建設の陳情要望をいろいろな角度から出していたが造られず、事故後に放射線量の検査をしてほしいと国に訴えてきたがそれも放置されていると今までの東電や国の対応を批判するとともに、多くの人に事実を知ってもらいたいと語った。次に南相馬市の桜井市長が発言した。当たり前のことできない現場をなぜ見ないのかと、国などの姿勢に強い疑問を



示した。また、命の大切さを挙げ、原発事故が2度と起こってはいけないという思いから脱原発を言い始めたと述べた。そして、南相馬市民が帰還し、その心の再生ができるよう復興に力を入れていきたいと語った。

第2部「原発隣接の首長として」では、まず「なぜ永久停止を表明したのか」という副題で、牧之原市の西原市長が発言した。牧之原市は浜岡原発に関して中部電力と安全協定を結んでいる。西原市長は永久停止を求めた経緯を次のように述べた。3.11後に多くの市民や企業からの意見を聞いた。そして、判断を牧之原市議会に委ね、安全が担保されなければ永久停止をという結論が出たため、市長としての考えを表明した。もし今後国や周辺の自治体が浜岡原発の再稼働を進める動きがあるとなれば、牧之原市民に直接住民投票という形で是非を問いたいとの考えを示した。次に、「なぜ脱原発を決断したのか」という副題で、湖西市の三上市長が発言した。10年前に9.11が起きて以来、国防上の理由から脱原発へと舵を切ったと個人的な経験を述べた。そして、原発事故直後に、新聞などでは原発推進と脱原発という点では意見がほぼ半々に割れているのを見て、首長として脱原発を訴え始めたと言った。

第3部「準原発被災地、消費地の首長として～地域で可能なエネルギーコントロール～」では、まず長生村の石井村長が発言した。過去の原発事故から学び、今こそ脱原発自然エネルギーを進めていくべきと述べ、太陽光エネルギーに対する村民への県の補助金に村単独で上乗せしている事例を紹介した。また、1000万人署名を村長自ら集めており、村長としてできること、一市民としてできることをこれからも続けていきたいと言った。次に世田谷区の保坂区長が発言した。杉並区が南相馬市を手助けする際に世田谷区が少し手伝いをしたとし、自治体が動けばスムーズに助け合えると述べた。また、世田谷区の取り組みとして、東京電力に対し世田谷区の電気使用量の情報公開を求めた事例を紹介した。そして今後は、世田谷区(46万世帯)での太陽光パネルなどを通した再生可能エネルギーの促進、福島や静岡などで作られる自然再生エネルギーの購入などを通した取り組みを行っていききたいとの考えを示した。

第4部「住民自治～自分たちのエネルギーは自分たちの責任で～」では、まず巻町の笹口元町長が発言した。過去27年間にわたり東北電力による巻原発建設が中止に至った経緯を、全国初行われた住民投票を含め紹介した。そして、原発は国策だから住民が口を出すのはおかしいという話があるが、住民の生命、財産に関係があるため住民が声を出すべきとし、国民的議論がなされた上でその結果が国策に生かされていくべきだと語った。次に、国立市の上原元市長が発言した。東京都は都民税を使って東電の大株主になっていると同時に、福島原発の電力消費者で、2重の責任を持っている。ここで都民が原発に関して決めないのは無責任である。もし都民投票が行われた結果、もう一度原発に依存する道を選ぶなら原発を東京にもって来るべきだと述べた。

最後に、上原元市長から脱原発首長会議の形成が壇上の首長へ呼びかけられ、同席した首長らは賛意を表明し、脱原発の首長ネットワークを作ることが確認された。

ここで報告を終了したい。ただ、この会議に向けて、神奈川県民の方からうちの知事に首長会議への参加を促しますという電話や、石井村長へ地方議員から誘いがあったなど、市民を底辺とした力があつ



たことも併せてご報告したい。そして、当日の登壇者を含め、関係したすべての方々に御礼申し上げるとともに、今後の首長の動きを市民としても支援したい。



(写真:高橋真樹)